

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三菱製紙㈱京都工場10号機工場	階数	地上2F
建設地	京都府長岡京市開田503-1他12兼	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	5人
地域区分	5地域	年間使用時間	7,200時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2017年11月11日
敷地面積	73,210 m ²	作成者	久保 和雄
建築面積	1,147 m ²	確認日	2017年11月 日
延床面積	2,025 m ²	確認者	久保 和雄

外観パース等
 (図面資料がない場合は)
 シートの写真をお送りください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p>BEE = 0.7 ★★☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>12452%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>77%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>77%</td> </tr> </table> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	①参照値	100%	②建築物の取組み	12452%	③上記+②以外の	77%	④上記+	77%	
①参照値	100%									
②建築物の取組み	12452%									
③上記+②以外の	77%									
④上記+	77%									

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.2**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p>Q1のスコア = 3.0</p>	<p>Q2のスコア = 1.6</p>	<p>Q3のスコア = 2.2</p>

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.3**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>LR1のスコア = 4.6</p>	<p>LR2のスコア = 2.3</p>	<p>LR3のスコア = 2.6</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>勾配屋根とし、可変み、景観に配慮し、高効率な設備機器の導入等により環境負荷の低減に配慮している</p>		<p>その他</p> <p>特になし</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>細やかなゾーニング空調、照明制御区分の細分化等室内環境に配慮している</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>設備システムの更新を容易に行えるように配慮している</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>計画建物は2階建て(勾配屋根)として出来るだけ周辺に影響しないように配慮している</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>太陽光発電設備を設置することで自然エネルギーの利用に配慮している</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>内装材を乾式化することで材料の再利用の可能性に配慮している</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>敷地周辺には緑地帯を配置し周辺建物等に対して影響の低減に配慮している</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される